

平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社博展

コード番号 2173 URL <http://www.hakuten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長

(氏名) 田口 徳久

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長

(氏名) 玉井 昭

TEL 03-6278-0010

四半期報告書提出予定日 平成26年8月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第1四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	1,528	△2.0	30	△43.5	29	△42.2	11	△62.0
26年3月期第1四半期	1,559	27.4	53	△52.3	51	△53.1	30	△53.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	3.33	3.24
26年3月期第1四半期	9.00	8.56

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第1四半期	2,651	1,080	40.7	304.81
26年3月期	2,854	1,110	38.8	316.94

(参考)自己資本 27年3月期第1四半期 1,078百万円 26年3月期 1,108百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	14.00	14.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	0.00	—	14.00	14.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,000	10.3	100	△25.0	90	△32.1	55	△31.4	15.54
通期	6,500	16.0	330	21.1	308	15.1	183	12.0	51.70

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当第1四半期累計期間において新株予約権の行使がされています。業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、当該新株予約権行使後の発行済株式数により算定しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期1Q	3,539,400 株	26年3月期	3,496,600 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

27年3月期1Q	— 株	26年3月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期1Q	3,511,323 株	26年3月期1Q	3,416,795 株
----------	-------------	----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の実績は、今後様々な要因により記載の予想数値と異なる可能性があります。なお、上記業績予想のご利用にあたっては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
3. 補足情報	6
生産、受注及び販売の状況	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融緩和政策の効果により、緩やかながら回復基調となりましたが、消費税増税の影響や海外経済の下振れ懸念等、依然として先行きは不透明な状況にあります。

当社の属する広告・イベント業界におきましては、2013年の日本の総広告費が2年連続で増加する等、顧客企業における広告宣伝投資、販促関連投資に一部復調の兆しが見られ、当第1四半期においても堅調に推移しております。

このような環境の中で当社は、新たな中期ビジョンとして「Be a PARTNER of EXPERIENCE MARKETING」(経験価値提供マーケティング・パートナーになる)を制定し、従来のFace to Faceマーケティングの上位概念であるExperienceマーケティング(人と人が出会う“場”・“空間”とそこで生み出される体験に焦点を当て、感動価値・経験価値を最大化し、クライアントのブランド価値や商品価値向上をとともに実現していくこと)サービスの提供を通じて、クライアントのマーケティング・パートナーへと進化するべく、中期経営計画で策定した下記3つの取り組みを推進してまいりました。

①顧客との永続的な共存共栄を実現するマーケティング・パートナーへの進化

前事業年度より継続してきた「点」のサポートから「線」のサポート、そして「面」のサポートへとクライアント内シェアを拡大する取り組みをさらに推進してまいりました。新商品発表会や全国キャラバンイベント、大規模なカスタマー感謝イベント等、クライアントが行う一連の販促・マーケティング活動を一括でサポートし、潜在顧客の掘り起こしや見込顧客の創出等、直接的にクライアントの売上増加に寄与するマーケティング・パートナーとして、クライアントのセールスマーケティング戦略の立案・実施に参画する取引も増えてきております。

②次世代の基幹事業への進化

前事業年度より本格的に進出した、コンファレンス&コンベンションサポート事業、商環境サポート事業、デジタルマーケティングサポート事業の各新規事業を、それぞれ次世代の基幹事業へと進化させるべく取り組んでまいりました。

各事業とも、新規クライアントの開拓、リピートクライアントの獲得等案件数を重ね、新たな収益の柱として成長しつつあります。また、専門性の高い人材の採用や事業インフラの整備等を行い、さらに強固な事業基盤づくりを進めております。

③グローバル対応が可能なパートナーへの進化

クライアントのニーズが高まりつつある、グローバルでのマーケティングサポートサービスを提供できるインフラ構築、サービスコンテンツ創出に挑戦してまいりました。

海外パートナー会社の発掘・選定や海外展示会の視察による業界動向の研究、新たなグローバル人材の採用等を行い、顧客満足度が高いサービスの提供が行えるよう取り組んでおります。

今後も中期ビジョンの実現に向け、上記3つの取り組みを強力に推進することにより、差別化された付加価値の高い提案を行い、シェアの拡大を目指してまいります。

以上の結果、コンファレンス&コンベンションサポート事業、商環境サポート事業、デジタルマーケティングサポート事業の各新規事業の売上高はそれぞれ前年同四半期と比べ順調に伸長したものの、合同展示会出展サポート事業並びにイベント主催サポート事業の売上高においてはイベント出展計画の見直しや隔年開催案件の影響等があったため前年同四半期と比較して減少し、当第1四半期累計期間の売上高は15億28百万円(前年同四半期比2.0%減)となりました。

また、前年同四半期において課題であった地方案件の採算性の改善等を行った結果、売上総利益については4億34百万円(前年同四半期比1.4%増)となりましたが、新規事業の更なる成長のため専門性の高い人材の追加補強を行うとともに、将来に向けた健全かつ継続的な事業拡大のための新人事制度の導入を行ったこと等により販売費及び一般管理費が増加しており、当第1四半期累計期間の営業利益については30百万円(前年同四半期比43.5%減)、経常利益は29百万円(前年同四半期比42.2%減)、四半期純利益は11百万円(前年同四半期比62.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における財政状態は、資産合計26億51百万円(前事業年度末比7.1%減)、負債合計15億70百万円(前事業年度末比10.0%減)、純資産合計10億80百万円(前事業年度末比2.7%減)となりました。

(流動資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は21億28百万円(前事業年度末比2億26百万円減少)となりました。これは、売掛金が前事業年度末比2億6百万円減少したことが主な要因となっております。

(固定資産)

当第1四半期会計期間末における固定資産の残高は5億22百万円(前事業年度末比22百万円増加)となりました。これは、基幹業務システム改修のための投資等により無形固定資産が前事業年度末比31百万円増加したことが主な要因となっております。

(流動負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は9億49百万円(前事業年度末比1億94百万円減少)となりました。これは、買掛金が前事業年度末比1億87百万円減少したこと、及び賞与引当金が前事業年度末比59百万円減少したことが主な要因となっております。

(固定負債)

当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は6億21百万円(前事業年度末比20百万円増加)となりました。これは、新規リース契約の締結によりリース債務が前事業年度末比19百万円増加したことが主な要因となっております。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は10億80百万円(前事業年度末比29百万円減少)となりました。これは、四半期純利益11百万円を計上したものの配当金の支払い48百万円を行ったことにより利益剰余金が前事業年度末比37百万円減少したことが主な要因となっております。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期累計期間における業績経過は、概ね計画通りに推移しているため、第2四半期累計期間並びに通期の業績予想につきましては、平成26年5月2日の決算発表時に公表いたしました業績予想から変更はございません。

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,050,759	980,570
受取手形	20,457	68,985
売掛金	1,129,343	922,877
仕掛品	62,626	64,837
原材料及び貯蔵品	1,601	3,059
その他	92,981	91,104
貸倒引当金	△2,869	△3,019
流動資産合計	2,354,901	2,128,413
固定資産		
有形固定資産	192,039	185,806
無形固定資産	80,134	111,661
投資その他の資産		
その他	229,639	227,116
貸倒引当金	△1,805	△1,790
投資その他の資産合計	227,834	225,326
固定資産合計	500,008	522,794
資産合計	2,854,909	2,651,208
負債の部		
流動負債		
買掛金	506,109	318,233
1年内返済予定の長期借入金	345,434	345,984
未払法人税等	13,258	1,667
賞与引当金	101,966	42,354
その他	177,036	241,135
流動負債合計	1,143,805	949,374
固定負債		
長期借入金	562,135	562,684
その他	38,933	58,766
固定負債合計	601,068	621,450
負債合計	1,744,873	1,570,825
純資産の部		
株主資本		
資本金	165,712	169,658
資本剰余金	145,712	149,658
利益剰余金	795,643	758,381
株主資本合計	1,107,068	1,077,698
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,147	1,147
評価・換算差額等合計	1,147	1,147
新株予約権	1,819	1,536
純資産合計	1,110,036	1,080,383
負債純資産合計	2,854,909	2,651,208

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	1,559,658	1,528,065
売上原価	1,131,266	1,093,676
売上総利益	428,391	434,389
販売費及び一般管理費	375,119	404,267
営業利益	53,272	30,121
営業外収益		
受取配当金	35	44
投資有価証券売却益	—	87
貸倒引当金戻入額	812	—
受取補償金	—	1,212
雑収入	266	517
営業外収益合計	1,114	1,862
営業外費用		
支払利息	2,175	2,126
雑損失	614	31
営業外費用合計	2,789	2,158
経常利益	51,596	29,825
税引前四半期純利益	51,596	29,825
法人税、住民税及び事業税	205	205
法人税等調整額	20,643	17,930
法人税等合計	20,848	18,135
四半期純利益	30,748	11,689

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

当社は、企業や団体の広告活動・販促活動に伴う、情報伝達を目的とした各種イベント及びマーケティングツールの企画・制作・運営を主たる業務として行っており、生産実績を定義することが困難であるため、生産実績の記載はしていません。

(2) 受注状況

前第1四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

当第1四半期累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
コミュニケーションデザイン事業	1,119,166	97.8	932,829	88.2
合計	1,119,166	97.8	932,829	88.2

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第1四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

当第1四半期累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
コミュニケーションデザイン事業	1,122,728	100.3	1,079,860	115.8
合計	1,122,728	100.3	1,079,860	115.8

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

前第1四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

当第1四半期累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	前年同四半期比(%)
コミュニケーションデザイン事業(千円)	1,559,658	127.4
合計(千円)	1,559,658	127.4

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第1四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

当第1四半期累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第1四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	前年同四半期比(%)
コミュニケーションデザイン事業(千円)	1,528,065	98.0
合計(千円)	1,528,065	98.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。